

大成 ファイン 硬度そのまま変形低減

大成ファインケミカル

(千葉・稲生豊人社長)は、アクリルポリマー側鎖にメタクロイル基の導入し、マクロモノマーを共重合させた、紫外線硬化型アクリルポリマー「8KXシリーズ」を開発、9月1日より販売展開およびサンプル提供を開始

する。昨今、多用途にわたり高成長を遂げている紫外線硬化型樹脂は、光学ディスプレイ・フィルムといったエレクトロニクス分野でも、ハードコート材料として様々な機能性を求められている。光学用途では、特に透明性

と硬度において高い物性を要求され、現在ではアクリレート系モノマー・オリゴマーが材料設計の主軸として多くに用いられる。

基材への密着不良や反り変形を引き起こしてしまう。また、モノマーについては材料としての皮膚刺激性が懸念されるとい

う課題があった。同シリーズは、これまでの紫外線硬化型アクリルポリマー側鎖にマクロモノマーを共重合させたことにより、各種オリゴマーとの相溶性、塗膜硬度(鉛筆硬度: H~2H)、可撓性(伸び率: 30~40%)で優れた性能を発揮する。これらの性能から、同シリーズをハードコート材料設計に組み込むことで、塗膜硬度を損なわず硬化収縮によるフィルム基材等の密着性改良、反り変形を低減する。

また、すべてポリマーでの設計なので、低皮膚刺激性であり、乾燥後塗膜がタックフリーとなることで、コーティングと紫外線硬化の工程を分離することが可能で、製造工程適性という点でも幅広い適用が可能となる。顧客の用途や要望に合わせて幅広い材料設計に対応できるよう、ポリマーの二重結合当量(メタクロイル基1個あたりの分子量)を調整した製品ラインアップを取りそろえており、さらなる材料カスタマイズを請け負う研究体制も整えている。

コーティング剤等の幅広い分野での対応が期待できるとして、2012年には売上高5億円の販売を目指している。問い合わせは、同社営業グループ(☎03・3691・3111、Eメール: info@raisai-c.co.jp)まで。